

35 か も 加茂のイチイガシ 1 株



賀茂神社

指 定	町指定天然記念物 昭和 48 年（1973）4 月 20 日
所在地	加茂 ほんむらにし か も 本村西 賀茂神社
祭 神	かもわけいかづちのかみ 鴨別雷神
分 類	ブナ科 コナラ属
大きさ	目通幹周り 約 4.3メートル 樹高 約 30メートル
樹 齢	約 350 年

賀茂神社の御神木である加茂のイチイガシは直立して美幹である。地上約 8 メートルの所で枝分かれしており、境内全域を覆っている。

平成 21 年（2009）、管理のしやすさから地表面をコンクリートで舗装していたが、同 29 年（2017）に樹勢が急に衰え、芽吹きが悪くなったため、樹木医に見てもらったところ、舗装で木の周りを覆っている事が樹勢を弱めた要因であるとの指摘を受け、地表の舗装のほとんどを取り除き、現在、樹勢の回復を待っている。

36 クマノゴケ

Diphyscium lorifolium (Cardot) Magombo
(= *Theriotia lorifolia* Cardot)



指 定	町指定天然記念物 昭和 48 年（1973）4 月 20 日
所在地	尾川 おかわ にしやま 尾川西山
分 類	せんるい 蘚類 キセルゴケ科

本種は溪流の水辺や水をかぶる半日陰の岩上に生育する。

本種は朝鮮半島からパキスタンにかけて生育し、日本では本州から九州の低山地に分布するが、産地は比較的少ない。

「準絶滅危惧」環境省

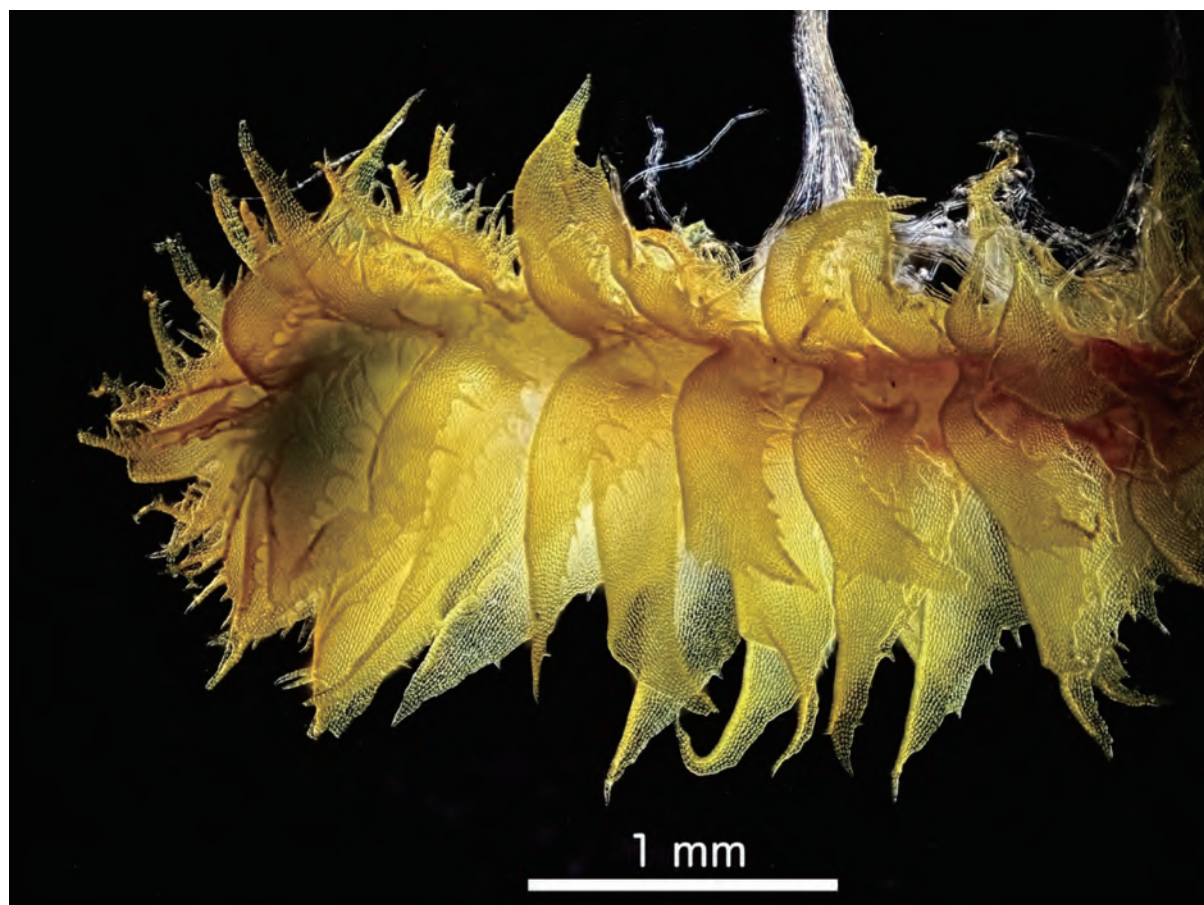
「絶滅危惧Ⅰ類」秋田県、宮城県、新潟県、福島県、埼玉県、神奈川県、山口県、愛媛県

「絶滅危惧Ⅱ類」愛知県、広島県、島根県

「準絶滅危惧」栃木県、三重県、京都府、大阪府、岡山県、福岡県、大分県、宮崎県

37 トゲアイバゴケ

Plicanthus hirtellus (F. Weber) R. M. Schust.



指 定 町指定天然記念物 昭和 48 年 (1973) 4 月 20 日

所在地 尾川 ^{ふるはた} 古畑 ^{こおく} 小奥

分 類 ^{たいるい} 苔類 ツボミゴケ科

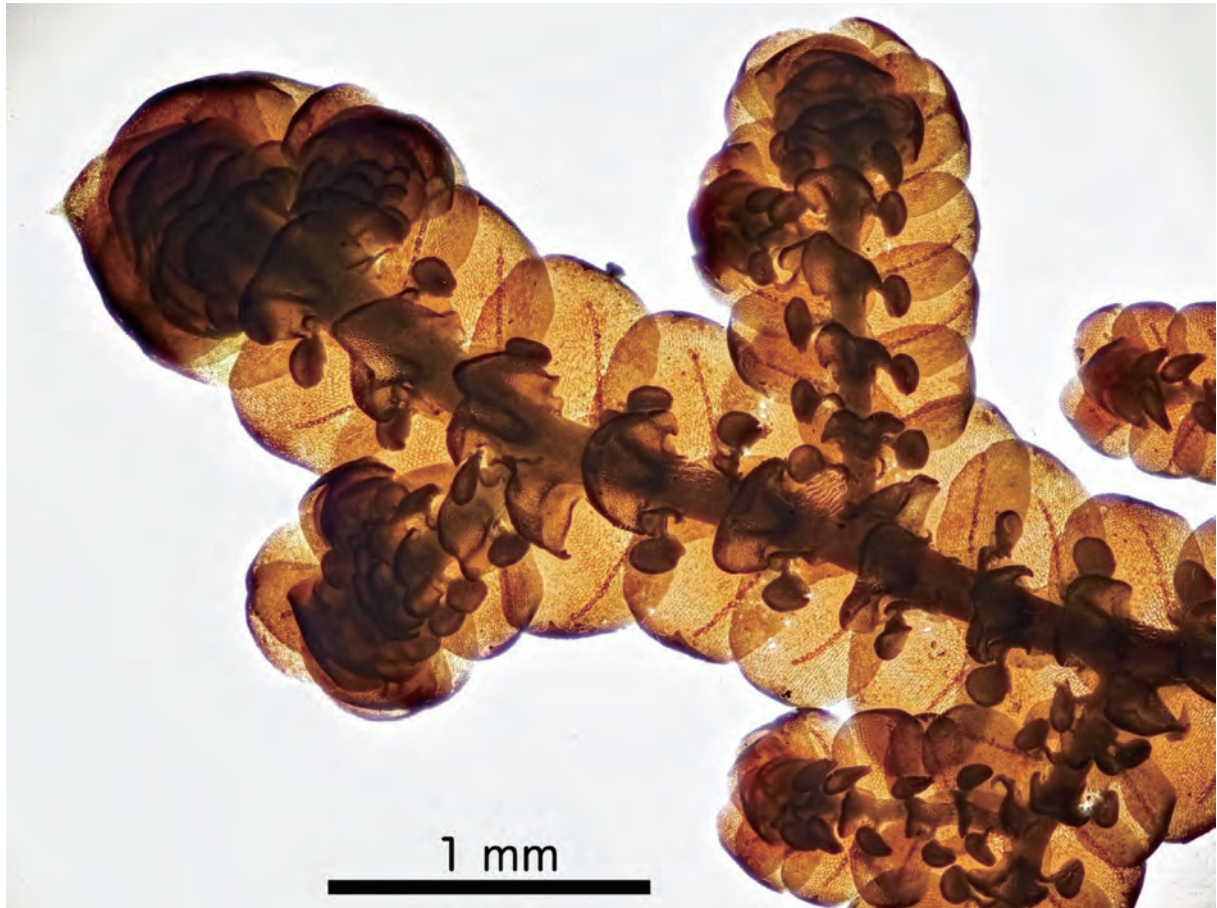
本種は東アジアに広く分布するほか、インド、アフリカ、オーストラリア、ニュージーランドにも分布することが知られている。日本では群馬県以南から九州に分布する。ふつう落葉広葉樹林帯の岩上に生育するが、亜高山帯からも見つかることがある。

近年の分子系統解析の結果、本種を含むアイバゴケ属 (*Plicanthus*) は、ヘリトリウロコゴケ属 (*Gymnocola*) やフサアイバゴケ属 (*Tetralophozia*) などとともに新科「Anastrophyllaceae」にまとめるという考えが提案されているが、本稿では従来の考えに従いツボミゴケ科とした。

38 シダレヤスデゴケ (マキノヤスデゴケ)

Frullania tamarisci (L.) Dum. subsp. *obscura* (Verd.)

S. Hatt. (= *Frullania makinoana* Steph.)



指 定 町指定天然記念物 昭和 48 年 (1973) 4 月 20 日

所在地 佐川^{おかざき} 岡崎

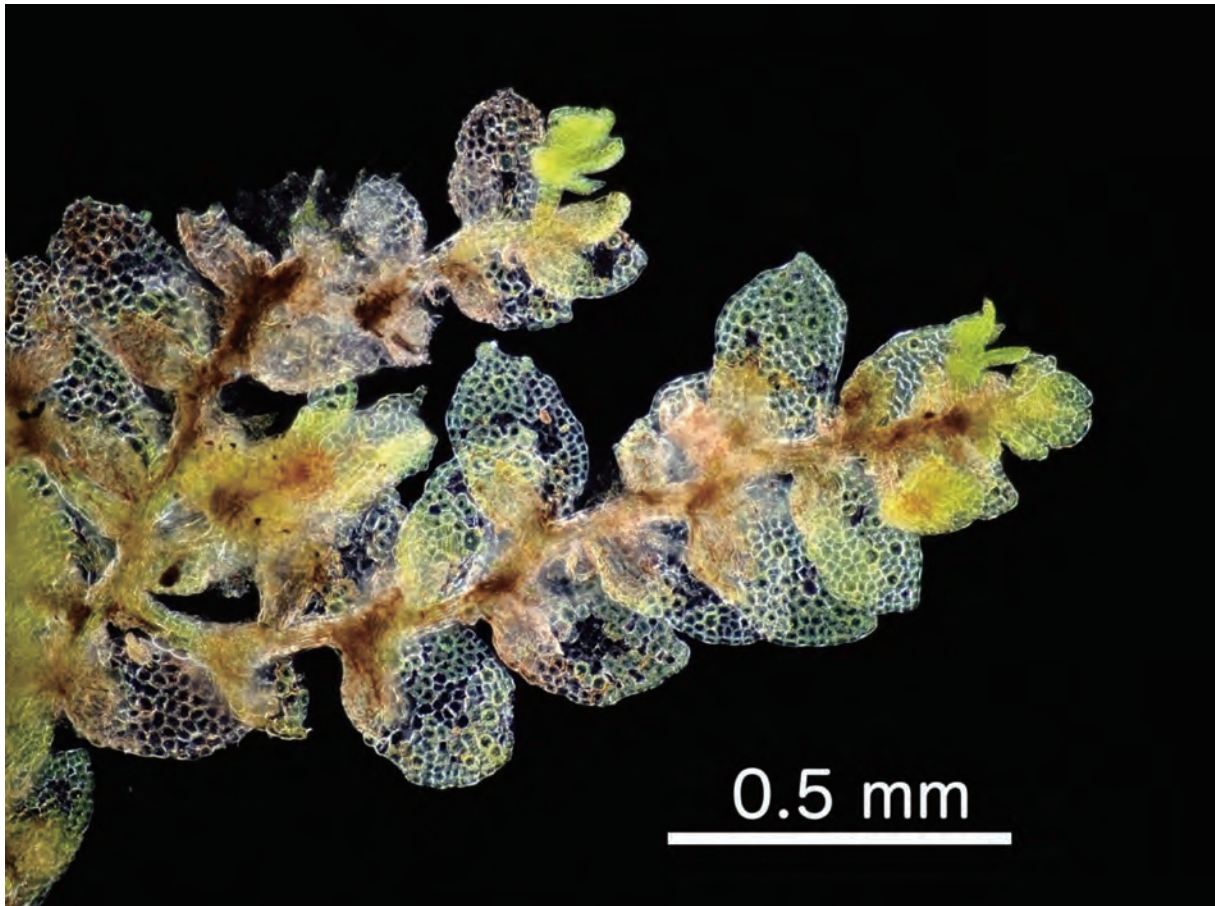
分 類 苔類^{たいりい} ヤスデゴケ科

本種は、明治 29 年 (1896) に牧野富太郎によって千葉県清澄山^{きよすみやま}で採集された標本をもとに、Stephani (1897) によって新種として記載された。その後、吉永虎馬によって佐川町からも見出された。和名「マキノヤスデゴケ」の命名も吉永虎馬によるものである。現在はシダレヤスデゴケと同種とされている。

本種は熱帯から亜熱帯アジアに広く分布し、日本では北海道から琉球列島まで見られる。低山から高山の樹幹に生育するが、しばしば岩上にも生育する。

39 カビゴケ

Leptolejeunea elliptica (Lehm. &Lindenb.) Schiffn.



指 定 町指定天然記念物 昭和 48 年（1973）4 月 20 日

所在地 佐川町全域

分 類 たいりい 苔類 クサリゴケ科

本種は、低山地の湿度の高い溪谷に生育する常緑広葉樹やシダ植物の葉上に着生する。

本種が生育する場所に近づくと独特な強い臭いを感じることができる。

本種はアフリカを除く亜熱帯から熱帯地域に広く分布し、日本では千葉県以南から琉球列島に分布する。

「準絶滅危惧」環境省

「絶滅危惧Ⅰ類」福島県、埼玉県、京都府、広島県、島根県、山口県、愛媛県

「絶滅危惧Ⅱ類」栃木県、愛知県

「準絶滅危惧」千葉県、三重県、岡山県、福岡県、大分県、宮崎県

「情報不足」長野県

40 マキノゴケ

Makinoa crispata (Steph.) Miyake



指 定 町指定天然記念物 昭和 48 年（1973）4 月 20 日

所在地 佐川 むろ はら ちょうしょうじやま 室原 聴松寺山

分 類 たいるい 苔類 マキノゴケ科

本種は、明治 31 年（1898）に牧野富太郎により千葉県清澄山^{きよすみやま}で採集された。この標本を三宅驥一^{き いち}が詳細に検討した結果、新属新種の可能性が浮上した。そこで三宅驥一は、ドイツの苔類学者 F. Stephani に標本と記載文、スケッチを送り意見を求めたところ、*Pellia crispata* と同じ種で、新たな形質から新属であろうとの返事を得た。この結果をふまえ Miyake（1899）により新属マキノゴケ属 *Makinoa* が記載された。種小名として牧野富太郎の名を持つ種は多数あるものの、属名では本属のみである。

本種は東南アジアから朝鮮半島に広く分布し、日本でも北海道から琉球列島まで見られる。低地から低山地の陰湿な土上や岩上に生育する。

41 オニヤスデゴケ (ニシヤマヤスデゴケ)

Frullania nepalensis (Spreng.) Lehm. & Lindenb.

(= *Frullania nishiyamensis* Steph.)



指 定 町指定天然記念物 昭和 48 年 (1973) 4 月 20 日

所在地 尾川 ^{ふるはた} 古畑 ^{こおく} 小奥

分 類 ^{たいりい} 苔類 ヤスデゴケ科

本種は、明治 29 年 (1896) に吉永虎馬によって佐川町尾川の大元神社境内の樹木の根元付近で採取され、Stephani (1897) によって新種として記載された。現在はオニヤスデゴケと同種とされている。

本種は東南アジアに広く分布し、日本では本州から九州で見られる。暖温帯から亜高山帯の岩上に生育するが、樹皮上にも生育することがある。

「絶滅危惧Ⅰ種」山形県

「絶滅危惧Ⅱ種」大阪府、京都府

42 ヤスデゴケモドキ

Phylliscum japonicum Zahlbr.



撮影：栃木県立博物館 坂井広人（高知市工石山）

指 定 町指定天然記念物 昭和 48 年（1973）4 月 20 日

所在地 斗賀野 おおひら 太平 こく 虚空蔵山 そうざん

分 類 ち い る い 地衣類 リキナ科

本種は、上村登により虚空蔵山の頂上付近の岩上で発見された。発見時、苔類ヤスデゴケの仲間と思われて採集したところ、かつて吉永虎馬により高知県筒上山で採集された地衣類の珍品であることが判明した（吉村 2017）。その後、上村登により和名「ヤスデゴケモドキ」が命名された。

今回の調査では本種の生育を確認することはできなかった。（平成 29 年 12 月現在）

「準絶滅危惧種」青森県

「情報不足」秋田県、長野県

43 こ おく 小奥のニッポンタチバナ 1 株



指 定	町指定天然記念物 昭和 48 年（1973）4 月 20 日
所在地	尾川 ふるはた 古畑 小奥
分 類	ミカン科 ミカン属
大きさ	根元周り 約 85センチ 樹高 約 10メートル
樹 齢	約 180 年

海岸に近い山地にまれに生える日本固有の常緑小高木で、尾川小奥に自生していたものを明治 20 年（1887）頃、牧野富太郎が発見したもので、タチバナの自生地発見としては、日本最初のものであったといわれる。果実は径 2 ～ 3 センチのやや扁平な球形で、10 ～ 12 月頃にとうこうしょく橙黄色に熟し、ユズに似た香りがある。